

# NPO JCP NEWS

No. 24 · 2011. 9.1

## 特集 東日本大震災

- ・東北・太平洋沖地震発生対応記録
- ・保存修復の現場から（1） “大船渡のジャンヌ・ダルク”紙本保存修復士 金野聰子さん
- 保存修復の現場から（2） 大槌町歴史資料所在確認調査への展望 安田隼人さん
- ・文化財ER発進
- ・岩手県陸前高田市博物館支援活動参加報告
- ・新しい公共～NPO／NGOの時代～「チベットヘリテイジファンド」
- ・JCP事務局通信
- ・書籍紹介「古典籍 古文書 料紙事典」



被災した文書類の山



被災した写真類



陸前高市被災文化財救援活動  
(安田隼人氏撮影)

# 東北・太平洋沖地震発生対応記録

3月11日午後2時46分、皆様はどこでどのように過ごしていましたか？

東日本大震災発生後、JCPもNPOとして、最大限できることを模索しつつ走り続けました。待ちの姿勢ではいけない、しかし待たなければいけない、そんなジレンマを抱えながら、できたこと、できなかつたこと、さまざまありました。

現在までの動きを検証することで、今後の指針としたいと思います。

日 時	対 応 記 錄	日 時	対 応 記 錄
3月11日	震災発生	4月27日	盛岡市都南歴史民俗資料館安田氏より協力要請、メルマガ発信、HP掲載をお約束する
3月12日	登録会員M氏（彫刻修復家）より、協力の申し出（メール）	5月 5日	ペーパータオル受け入れのため、NPOたいとう歴史都市研究会に協力要請。→旧平櫛田中邸倉庫を借りられることになり、事務局2名、会員ボランティア2名と共に清掃作業
3月13日	登録会員S氏（装こう関係者）より、協力の申し出（メール）	5月 6日	登録会員M氏より、資材寄贈 登録会員K氏より薄葉紙 1000枚寄贈
3月14日	茨城、栃木、宮城、福島、岩手、山形、秋田、青森、北海道在住の会員に対し、メールにて安否確認	5月 8日	宮城ネットの要請により、岩手県大船渡市綾里の旧家、C家の襖、屏風の救援に赴く。襖貼付の書8面をはずし、梱包。宅急便にて京都造形芸術大学へ輸送※大林副理事長が、京都造形芸術大学の立場で現地入り、金野聰子さん、JCP事務局八木が合流
3月15日	登録会員N氏（立体修復技術者）より、協力の申し出（メール） 登録会員U氏（紙本・油絵修復技術者）より、協力の申し出（メール） メルマガ緊急配信、三輪理事長メッセージ、メルマガ、HPに掲載	5月10日	東京文化財研究所 情報共有研究会出席
3月16日	メルマガNo.66発行、レスキュー団体情報、募金先一覧、ボランティア情報など掲載HPにて、会員に被災地情報提供の呼びかけ	5月11日	岩手県大船渡市へ、ペーパータオル3箱、薄葉紙100枚寄贈
3月22日	賛助会員より、物資支援の申し出	5月12日	メールマガジン臨時便発行。陸前高田市被災現場からの情報掲載。宮城ネットのボランティア募集記事掲載
3月28日	岩手県大船渡市在住紙本修復家金野聰子様より電話にて救援要請を受ける	5月13日	登録会員Y氏より文化財の燻蒸や施設の環境整備協力の申し出
3月31日	賛助会員H氏より、修復用手すき和紙提供の申し出	5月18日	賛助会員H氏より修復用和紙寄贈
4月 4日	一般会員S氏より、事務のボランティアの申し出	5月20日	山形資料ネットペーパータオル2箱、薄葉紙100枚、レーヨン紙10m寄贈エタノール40本、刷毛60本、マスク1箱寄贈
4月 7日	三輪理事長、西浦副理事長、三浦理事、加藤監事、山領専門評価委員で震災対応の会議を開く	5月23日	登録会員U氏より、資材寄贈
4月19日	メールマガジン臨時便発行。NPO法人宮城資料保全ネットワークのボランティア募集記事掲載	5月24日	京都造形芸術大学／NPO JCP共催 被災文化財ERプロジェクト参加のボランティア募集開始
4月20日	メールマガジン臨時便発行。NPO法人宮城資料保全ネットワークのボランティア募集記事掲載 旧東京駅舎瓦屋根保存運動の署名募集記事掲載	5月26日	登録会員N氏より、資材寄贈
4月21日	メールマガジン臨時便発行。救援募金開始のお知らせ	5月27日	岩手歴史民俗ネットワークへ、薄葉紙等送る 賛助会員U氏より、資材寄贈
4月22日	岩手県在住登録会員N氏より、様々なジャンルの被災資料の処置方法に困っているので、対応方法に関して情報を提供してほしい。海水と泥をかぶった資料に関して、紙資料、写真、フィルム関係、その他美術品など、現場ができる最善の処置方法をまとめているものがあれば提供して欲しいという要請があった。→JCPブログ、文化庁HP、宮城ネット、資料ネットHPの情報、写真の応急処置方法等を送る	6月11日	京都造形芸術大学／NPO JCP共催 被災文化財ERプロジェクト始動、岩手の被災文化財を対象に、週末ごとに活動
4月25日	賛助会員より、協力の申し出	6月30日	東京国立博物館 神庭先生の監修の下、岩手県
4月26日	登録会員 特種紙商事株K氏より、ペーパータオル提供の申し出。→東文研へ50箱、東北芸工大へ20箱、JCPへ30箱送ってもらう	～7月1日	～7月1日 陸前高田市旧生出小学校に保管されている陸前高田市博物館被災資料の救援活動に参加
		7月 2日	7月 2日 金野氏が写真などを修復処置している大船渡市社会福祉協議会総合福祉センターへ、現場を視察 ※特集記事参照
		7月19日	7月19日 東博 神庭先生、登録会員専門家（石原道知氏、内田香里氏、三浦功美子氏）とともに、岩手県
		～21日	～21日 陸前高田市旧生出小学校に保管されている陸前高田市博物館被災資料を調査 ※特集記事参照

## 保存修復の現場から（1）

# ～“大船渡のジャンヌ・ダルク”紙本修復士 金野聰子さん～

### 1本の電話から

東日本大震災発生から17日後の3月28日、岩手県大船渡市在住の紙本保存修復士 金野聰子さんから1本の電話が入りました。自分は被災地の保存修復士であること、たった一人で写真のレスキューに取り組んでいること、保存修復士と聞きつけた近隣の人や親族から、古文書、破損した位牌や仏像まで持ち込まれていること、何とか支援してほしい、という内容でした。

震災発生以来、JCPも募金や資材の提供を呼びかけるなど、支援活動を開始した矢先の出来事でした。

被災文化財の救援活動は、実は大変難しい側面をしています。モノには必ず所有者があるため、地元住民ではない団体がいきなり乗り込んで行っても、怪しまれるだけです。モノを拾い集めるという行為は、下手をすると窃盗と間違われかねません。被災した住民にとっては、無神絃な行動と映り、感情を傷つけることも十分有り得ます。まずは人命救助が一段落し、基本的には地元の団体／個人からの要請があつて動くことが望ましいとされています。

しかし自らが被害者である地元の関係者がSOSを発信するのは容易なことではありません。そんな中で、金野さんは自ら行動を起こし、貴重な発信源となったのです。

金野さんの電話に対しては、資材と人的援助ができると伝え、その後写真保存の専門家でもある大林賢太郎副理事長（京都造形芸術大学准教授）に報告し、バックアップ体制を相談しました。

金野さんによると、喫緊の問題は、各地で写真の救援活動が進んでいるという情報があるものの、大船渡では自分ひとりで手が廻りきらず、焦っているということ、適切な処置方法が伝わっていないこと、むしろメディアなどで不正確な情報が伝わり、心配していること、また今回は重油で汚れた写真がかなり存在し、その洗浄方法が不明であることなどでした。JCPでは、会員の写真保存の専門家に声を掛け、ブログ上に写真の洗浄方法を掲載するべく情報を

### 金野 聰子さんプロフィール

岩手県大船渡市在住。紙本保存修復士

2000年10月 渡英。

2002年10月 University of the Arts London, Camberwell College of Arts, BA (Hons) Conservationに入学、美術品の保存修復を学ぶ。

2005年7月 同大学をFirst Class Honoursにて卒業。

卒業論文 “The Conservation of a Nineteenth Century Scrapbook” はThe London Guildhall Libraryに所蔵作品として永久保存される。

同年9月 日本帰国後、紙本保存修復士として活動を開始。2007年より岩手県立図書館より図書館本治療講師として紹介され、岩手県内の市町村で図書館本治療の出前講座を行っている。

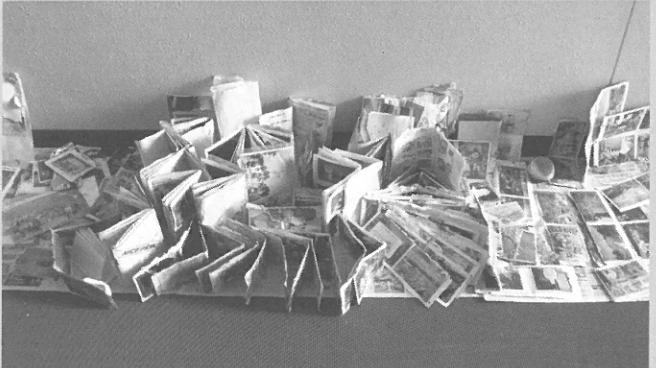
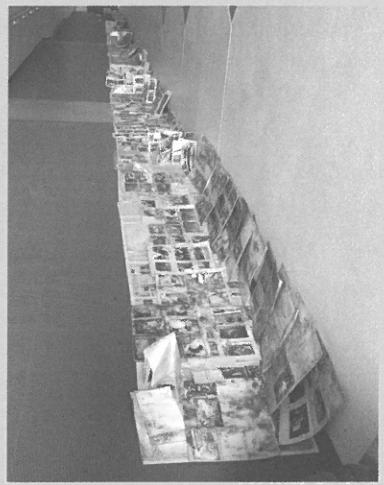
集め始めました。しかし、フィルムメーカーによっても発表している処置方法が異なるなど、一朝一夕に正確な情報を整理することはできません。この頃、被災文化財の救援を行っている各団体のHPも、次々に対処法をアップし始めました。それらのページにリンクを貼りつつ、やはり平時からあらゆる局面を想定しての備えが必要と、深く反省した次第です。

また、3月の時点では、被災地のネット状況は極めて悪く、Eメールの送受信も簡単ではありませんでした。HPに情報が掲載されているからと言って、本当に必要な人が閲覧できるわけでもないのです。金野さんとは、行方不明者を探す “Person Finder” というサイトで、メッセージのやり取りを行いましたが、それとても被災地に設置されたPCを通してのことなので、リアルタイムというわけにはいきませんでした。

### 金野さんバックアップメンバーの拡大

そんな中で、金野さんを支援しようというネットワークは急速に拡大していました。金野さんは本来紙の保存修復士であつて、写真保存の専門家ではありません。金野さんの友人で、東京在住の写真修復士 白岩洋子さんが、震災発生当初から支援に乗り出し、白岩さんのネットワークでも支援の輪が広がりました。直後に東京大学で紙の研究をしている江前敏晴先生が駆けつけたのをはじめとして、必要資材についても株式会社パレット、コニシ株式会社、特殊紙商事株式会社が多大な支援を寄せました。また、地元紙や海外のメディアが取材に訪れ、「大船渡のジャンヌ・ダルク」と呼ばれるようになったそうです。

我々も、5月8日に旧家の襖を救援するため岩手入りしたことを皮



大船渡社会福祉協議会（総合福祉センター）の通路に所狭しと並べられたレスキューされたアルバム類

切りに、逆に金野さんに助けてもらうなど、連携体制ができたことは、多いに感謝すべきことでした。

7月2日（土）、機会を得て、漸く金野さんの仕事場をお訪ねすることができました。折りしも白岩洋子さんがちょうど支援に来ており、一緒にお話を伺うことができました。インタビュー：震災当初のこと教えてください。

金野さん：我が家は幸い流されませんでしたが、家の200m前まで津波が来て、あわやというところでした。避難所に逃げた人には食糧の支給がありましたが、自宅に籠っている人間には情報が伝わらず、4日目には飢え死にしそうでした。ガソリンも満足になくて、歩いて配給場所まで行ったら、目の前で配給が終わってしまったこともあります。イ：そんな中で一人でレスキュー活動を始めたのですか？

金野さん：もともと地元で仕事をしていたので、政府の「思い出の品をレスキューせよ」との通達が出てから、賞状やアルバムなどが集まり始めました。自宅では手狭になったので、大船渡市に掛け合い、総合福祉センターの調理室を借りられるようになりました。

イ：緊急雇用で人材も確保できたのですね

金野さん：当初は毎日違うボランティアさんが5～6名ずつ来るので、毎朝一から説明しなければなりませんでした。「これは洗える写真」「これは洗えない写真」と。でも、私も写真の専門家ではないので、友人の写真修復士 白岩洋子さんによちゅう電話して助けてもらいました。今は大船渡市社会福祉協議会の緊急雇用で雇われた7人の職員と共に写真洗浄を行っています。皆さん普通の主婦の方々ですが、今や「これはパライタ<sup>※1</sup>だから」「これはRC<sup>※2</sup>だから」と専門用語が飛び交っています。

イ：お互いに信頼しあっているのですね。

金野さん：彼女たちにはトリアージ<sup>※3</sup>を頼むようにしています。何を残し、何を諦めるのか、それは被災した方々が一番よく分かることです。具体的には、津波に襲われる前の風景を写したもののは、できる限り救うようにしています。それから家の門扉など、ヒントになるものが写っていれば、画像がかなり損なわれても残すようにしています。当然ですが一人でも人物像が残っている写真は残します。

## ブリコレール (Bricoleur) ~ ブリコラージュ (Bricolage) な人たち~

イ：最初は冷凍庫も満足にない中で、どのように処置を始めたのですか？

白岩洋子さん：今回気が付いたのは、こうした現場で必要なものは最先端技術や最新の機械などではないということです。手近にある、誰でも手に入る材料で工夫することが最も有効です。

例えば、塩水を被った写真を洗って乾かすとき、紐にピッチで挟んだ写真を吊るすのですが、たくさん吊るすとお互いが触れ合って、画像同士がくっついてしまうことにもなりかねません。その問題を解決してくれたのは、何とストローです。普通のプラスティックストローを2～3cm間隔でカットし、ピッチとピッチの間に挟みます。こうしておくことで、写真同士の密着を防ぎ、狭い場所も最大限利用



ピッチとピッチの間にストローを挟んで吊るされた写真



金野聰子さん。左は、株式会社 東芝プラントから寄贈された冷凍庫



支援に駆けつけた写真修復士 白岩洋子さん

することができます。

その意味で、東京文書救援隊が推奨する簡易な資料救済処置方法が、とても参考になったということです。この方法については、

[http://toubunq.blogspot.com/2011/05/blog-post\\_30.html](http://toubunq.blogspot.com/2011/05/blog-post_30.html)  
をご参照ください。

かつてフランスの文化人類学者 レヴィ・ストロースは、限られた資源の中で生きている原始社会において、手持ちの材料を使って必要性に役立つ道具を作ることを「ブ

リコラージュ」と言い、そうした人たちを「ブリコルール」と呼びました。「日曜大工」とも訳されています。ブリコルールとは、人間に本来備わっている先駆的知性を失っていない人々とも言えます。実はこれこそが、技術者の基本ではないでしょうか？前号で取材した小澤正実先生の話でも感じたことですが、機械に頼れないこのようなときこそ、人間の知性が試されるように思います。この対極にあるのが、高精度な機器で鎧いながらも、結局制御に失敗した原発事故ではないでしょうか。

## 取材を終えて ～個人ができること、組織ができること～

今回の取材では、個人のネットワークの強さを改めて見直しました。それは、目頃からの行動範囲の広さに加え、困難な状況下においても発信していく強靭な積極性という、金野さん個人の極めて属人的な能力に帰するものかもしれません。しかし、組織同士がルールに縛られている間に、個々が繋がりあって広がるネットワークがはるかに行動力を發揮しているという事実は、謙虚に見習い、反省するところがあるように思います。

それでも、文化庁などが組織する「東北地方・太平洋沖地震被災文化財等救援事業」には期待を寄せる、と金野さんは言います。公民館など公的機関にアクセスしても、一個人保存修復士ではありません相手にしてもらえない、信頼性に限界があるということを感じているそうです。

また、「東京には専門家がいっぱいいて、手助けをしたいと思っても、交通機関が十分に復旧していない今、大船渡まで来る時間は限られています。また写真を東京に送っ

てもらおうとしても、個人の工房では場所が限られています」と仰るのは白岩さんです。

今、国、NPO組織、民間企業、個人など、かつてなかつたほどの勢いで、善意を行使しようと東北を見つめています。それぞれの持つ目的、体制、性格は違います。違うからこそ、相互補完的に連携することで、一層の支援力になるのではないかでしょうか？

未曾有の大震災を受けて、今、日本人全員が初めてのことに直面していると言っても過言ではありません。大切なことは、この体験から学んだことをいかに活かし、より進んだ次元へ展開していくかでしょう。復興はこれからです。私達もNPO法人として、己の立ち位置を十全に活かし、支援に取り組んでいきたいと思います。

(レポーター：事務局 八木三香)

---

※1 RC紙 (Resin Coated Paper)：原紙の両面にポリエチレン層が塗布されており、表面（乳剤面）のポリエチレン層には、酸化チタンが含まれている印画紙。不必要に薬品を吸収するパライタ紙の欠点を解消したもの。1968年にイーストマンコダック社により商品化された。

※2 パライタ(紙)：原紙にパライタ層（硫酸バリウムが含まれたゼラチン）が塗布された印画紙。RC紙が登場するまでは印画紙といえばこのパライタ紙が主流であった。

※3 トリアージ：人材・資源の制約の著しい特に災害医療現場において、最善の救命効果を得るために、多数の傷病者を重症度と緊急性によって分別し、治療の優先度を決定すること（ウィキペディアからの引用）。

## 保存修復の現場から（2）

### 大槌町歴史資料所在確認調査への展望

盛岡市都南歴史民俗資料館の安田隼人さんと知り合ったのは、宮城歴史資料保全ネットワークが募集するボランティア活動に参加した、JCP会員を介したことでした。

今回の震災に際して際立っているのは、文化財救援活動に若者の力が多いに寄与していることです。教育委員会などの中堅職員が被災者支援に回らざるを得ない中、学生や若手の文化財専門家が力を発揮しています。安田さんもそんな若手専門家の一人です。JCPは要請を受け、安田さんからもたらされる現地の状況を極力リアルタイムでメールマガジンに掲載してきました。震災から数ヶ月を経て今、各県の文化財支援活動は漸く活発化しています。今回は岩手県の現場から、安田さんに寄稿いただきました。

7月21日（木）、大槌町歴史資料所在確認調査の日程調整と説明のため大槌町を訪れた。大槌町は岩手県沿岸にあり、岩手県県庁所在地盛岡市から直線距離にして南東へ約80km、青森県八戸市からは南へ約120kmにある町である。ちなみに東京からは北北西へ約550kmだろうか。近世においてはイルカ漁やクジラ漁が盛んであり、現在も漁業が主産

盛岡市都南歴史民俗資料館 安田 隼人



大槌町教育委員会（中央公民館）からの町の眺望

<input type="checkbox"/> Level 0	大槌町被災歴史・民俗資料所在確認調査票		
<input type="checkbox"/> Level 1			
<input type="checkbox"/> Level 2			
<input type="checkbox"/> Level 3			
資料名(資料群)	指定区分 <input type="checkbox"/> 國 <input type="checkbox"/> 町 <input type="checkbox"/> 村 <input type="checkbox"/> 未		
所有者(代表・団体名)		避難場所	<input type="checkbox"/> 避難所 <input type="checkbox"/> 仮設 <input type="checkbox"/> 自宅
所在地	被災前 平 <input type="checkbox"/> 実地番号	被災後 平 <input type="checkbox"/> 実地番号	
移転の可能性	<input type="checkbox"/> 有 ( <input type="checkbox"/> 県内 <input type="checkbox"/> 県外 <input type="checkbox"/> 未定 ) <input type="checkbox"/> 無		
移転後連絡先	平 <input type="checkbox"/> 実地番号		
現状確認	<input type="checkbox"/> 所有 <input type="checkbox"/> 未所有 <input type="checkbox"/> 発見 <input type="checkbox"/> 損失 <input type="checkbox"/> 燃失 <input type="checkbox"/> 廉損 <input type="checkbox"/> 売却 <input type="checkbox"/> 不明	<input type="checkbox"/> 保存・維持 <input type="checkbox"/> 因難 <input type="checkbox"/> 相談(自治体等へ) <input type="checkbox"/> 検討	
被災確認	<input type="checkbox"/> 全棟 <input type="checkbox"/> 廉食 <input type="checkbox"/> 破れ <input type="checkbox"/> 半棟 <input type="checkbox"/> カビ <input type="checkbox"/> 虫害 <input type="checkbox"/> 浸水 <input type="checkbox"/> サビ <input type="checkbox"/> 離散 <input type="checkbox"/> 火災 <input type="checkbox"/> 剥れ <input type="checkbox"/> 把握不可		
応急処置(修復)の必要性	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	応急処置(修復)先	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
写真の撮影	調査時 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	応急処置(修復)後 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
特記事項			
調査日:平成 ..... 記入者		記入者	
岩手歴史民俗ネットワーク			

調査表

業である。また、大槌町は井上ひさし著『吉里吉里人』、「ひょっこりひょうたん島」のモデルとなった蓬莱島があることでも有名なところだ。

当日、町の担当者と協議し調査に理解と協力を頂くことができた。町では広報に調査実施の記事を掲載し、文化財保護審議会を8月中に開くこと及び審議委員各位に周知して頂くこと、審議委員の協力を頂けることとなった。行政とその関係者には、岩手歴史民俗ネットワークの活動が歓迎されたと感じている。しかしながら、被災から約5ヶ月が経過し、ご周知のとおり調査の実施は9月1日である。大槌町は津波により町長が亡くなり、8月26~28日に町長選挙を控えている。町の事情を考慮しての結果となったが、レスキューや歴史資料の所在確認の初動が遅れた点は当会のメンバーとして反省しなくてはならない。町の現状として、浸水域は瓦礫の撤去が進んでいたが、復興という兆しではないように窺えた。写真は、大槌町吉里吉里の海岸である。堤防が根こそぎ倒され、今尚そのままの状態であったし、海岸線は沈降したため護岸と海面は、ほぼ同位となっていた。当会は9月に行われる調査方式を岩手方式として広め、全県的な歴史資料の所在確認をすること、それと並行して資料をレスキューしていくことが今後の目標である。

9月1日の調査実施の要項については、先日発行された貴機構の臨時メールマガジンをご参照頂きたい。そのなかには今回使用する調査票もある。併せてご参照願いたい（上図参照）。

誠に勝手ながら調査にあたってご支援のお願いをして今回の報告を終わりたい。

調査時	応急処置(修復)後
応急処置(修復)時の変化	
記入者(	
応急処置(修復)後の経年変化	
記入者(	
その他・特記事項	
記入者(	
記入者(	

岩手歴史民俗ネットワーク



大槌町吉里吉里地区

# 東日本大震災 被災文化財ERプロジェクト 発進

JCP関西支部と京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター歴史遺産研究部門の共催で、東日本大震災による被災文化財の救援プロジェクト（通称ERプロジェクト）を立ち上げました。文化庁の呼びかけで行っている『東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業』で救援された文化財の一部（現在お預かりしているのは、襖8面、屏風3枚、額3点、掛軸巻子等30件あまり、古写真100点ほど）の応急処置を行っています。

JCP会員の中で、大学の設備を使って学生と一緒に作業を行っていただけるボランティアを募集し、毎回数人の会員が参加してくださっています。このプロジェクトで現在行っているのは、修復ではなく応急処置までです。海水に長期間浸かった文化財に対する処置は、手探りの部分も多く、プロの方々の協力が欠かせません。

このプロジェクトに興味のある方は下記までお問い合わせ下さい。

E-mail : k\_ohbayashi@bea.hi-ho.ne.jp



ERプロジェクト修復作業 右が大林賢太郎関西支部長（JCP副理事長・京都造形芸術大学准教授）

## 岩手県陸前高田市立博物館被災資料救援活動 参加報告

JCPでは、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会（以下、救援委員会と略）の要請を受け、東京国立博物館保存修復課長 神庭信幸先生の指導監督の下、3.11の津波で被災した陸前高田市立博物館収蔵資料の救援活動に參加しました。

同博物館は、図書館、体育館などと共に沿岸部に建設されていたため、津波をもろにかぶり、5人の職員全員が亡くなられたということです。被災した資料は、自衛隊などの協力により収集され、その殆どは閉校となった旧生出（おいで）小学校に保管されています。

既に退職されていた元館長の本多文人先生が館長に復帰し、主任学芸員の熊谷賢先生を中心に、緊急雇用された方々が、毎日膨大な被災資料のクリーニングに奮闘していました。

救援委員会に岩手県から正式な要請があったのを受け、人間文化機構、国立文化財機構に所属する専門家が、それぞれの得意分野において救援に駆けつけました。

JCPは、その中で、紙資料と考古資料の調査にあたりました。

今まで行ったミッションは、下記の通りです。  
(第1回)

日 程：6月30日（木）～7月1日（金）



越前高田市立図書館および博物館

監 修：神庭信幸先生（東京国立博物館）

参加者：八木三香（事務局）、三浦功美子氏（JCP登録会員／東北芸術工科大学准教授／専門；装こう）  
(第2回)

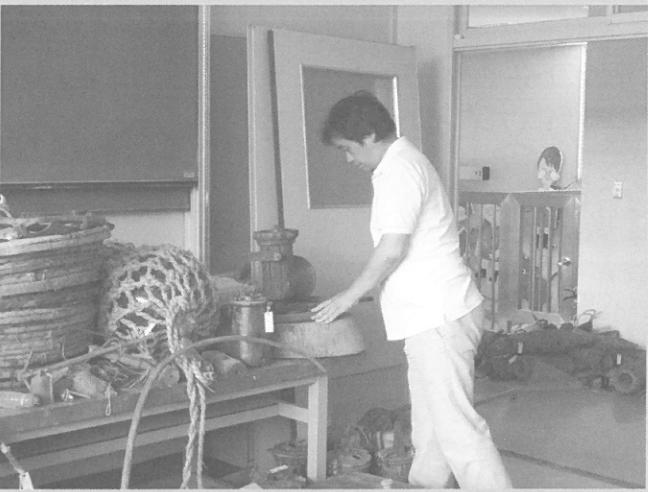
日 程：7月19日（火）～21日（木）

監 修：神庭信幸先生（東京国立博物館）

参加者：北川美穂氏（東京国立博物館／漆）、村上直子氏（国立国会図書館／紙）



被災資料のクリーニング作業



作業中の石原氏

八木三香、三浦功美子氏、石原道知氏（JCP登録会員／武蔵野文化財修復研究所代表／考古遺物、埋蔵文化財）、内田香里氏（JCP登録会員／国立西洋美術館／洋紙）

陸前高田市立博物館は、自然史系から人文系まで、幅広いコレクションを収藏していました。特に昭和53年度の館長 宗宮参次郎氏が、県内の石碑の拓本を取って自ら表装した200本以上に上る掛け軸は、オリジナルの石碑が流れてしまった今、非常に貴重なものとなっています。これらの調査は三浦会員が担当しました。また、夥しい数の昭和時代の漫画雑誌などが救い出されました。これらは特別展の折にコレクターが寄贈したもので、代替品がないものが殆どです。これらの調査と取り扱いの所見は、内田会員と、国立国会図書館から派遣された村上氏が共同作業で行いました。その他、漁具や生活用具など、多彩な民具が収藏されており、金属を使用している民具については、石

原会員がこれを担当しました。

その間に、国立博物館の北川さんが校内の図面を作成し、神庭先生と共に、今後処置を終えたコレクションの収蔵計画を立てていました。

こうした作業の合間、休憩時に職員の方々がお漬物を出してくださるなど、大変お世話になりました。また自らが被災して、避難所から通つていらっしゃるにもかかわらず、様々な質問にも嫌な顔ひとつせずお答えいただき、我々を和やかに迎えてくださいましたことに、深い感銘を受けました。この場をお借りして、本多館長、熊谷先生、陸前高田市の方々、岩手県教育委員会の方々に、厚く御礼申し上げます。

このミッションには、今後様々な形で関わっていくことになると思います。逐次報告を行いますので、今後とも見守ってください。よろしくお願ひ申し上げます。

（文責：事務局 八木）

## 新しい公共～NPO／NGOの時代～

### チベット ヘリティジ ファウンド Tibet Heritage Fund (THF)

チベット ヘリティジ ファウンド（略称THF）は文化遺産の保護と振興において国際的な理解と協力を促進することを活動目的とした組織です。ドイツ、ベルリンおよび香港にて非営利組織（NPO法人）として登録され、多様な国籍のメンバーと支援者で構成されています。1996年より、チベットのラサにて歴史建築物の修復活動を始めとし、チベット自治区、四川省、青海省、北京、インドのラダック、モンゴル国とその活動を広げています。修復活動を通じて失われつつある伝統建築技法を復興し、若い技術者の育成に力を入れるとともに、歴史建築物の体系的な記録にも取り組んでいます。また、各事業は当地政府機関と住民との協力の下に行われ、多角参加による文化遺産の有効な保護

と利用、歴史地区の持続的発展に貢献しています。

#### THFの活動内容

歴史地区の復興活動および歴史建築物の修復

伝統建築技法に関する職業訓練

壁画の修復および保存

歴史建築物の測量および記録

歴史地区と建築物に関する水利および衛生施設の改善

実地修復活動に関するインターンシップ受け入れ

建築文化遺産に関する研究と国際/地域交流

長年にわたる活動を通じて、THFは様々な人々に支えら



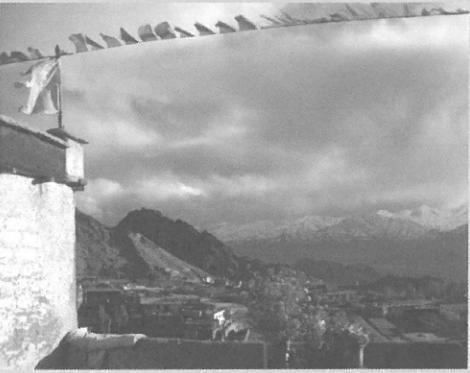
リーダーの平子さん



高橋玲さん



THFのメンバーたちと



れて数多くの事業に取り組んできました。そして、チベット文化圏の各地に修復された歴史建築物を、その活動の軌跡として現在に伝えています。実地修復事業においては、多くの国々から多様な技術者、インターンシップやボランティアの方々に参加していただき、現地の職人達と共に“なおす”仕事に携わって頂きました。異なる文化や環境の中での共同作業は、大変なこともありますが、みんなで造り上げた成果は忘がたい記憶としてそれぞれの胸中に刻まれたことと思います。

今回は、2007年度と2009年度にそれぞれTHFの修復事業に参加してくれた日本人絵師の高橋怜さんに、その思い出を綴って頂きました。高橋さんの生の声を通じて、THFの活動の一片を皆さんに紹介できることをスタッフ一同喜ばしく思います。

## —インド、ラダックの修復作業を手伝って—

高橋 玲

今回、私がTHFの修復活動にボランティアとして参加したのは二回目になります。

最初は2007年に、モンゴル国のゴビ砂漠奥深くに佇むセンゲン・ダライという、チベット寺院の修復事業において彩色作業の手伝をさせてもらいました。どうして私がTHFに参加をしたかというと、以前からチベット仏画に興味があり、実地作業を通して絵師の方から色々な技法を学びたかったからです。修復完成後わたしはチベット人の絵師や大工さんの故郷である中国青海省に留学をし、チベット仏画の線画や彩色の技法を勉強をさせて頂きました。留学終了後の2009年に改めてTHFより声がかかり、インドのジャ

ンムーカシミール州にあるチベット文化圏の中心地、ラダックのレー旧市街での修復事業に参加しました。私はナムギャルツェモ、ゴンパという寺院の壁画修復の現場を手伝いました。この寺院は岩山に聳え立つレー旧王宮のさらに上に位置しています。チベット本土の寺院（特に現青海省にあたるアムド地方）では数年に一度、寺院の壁画や内装を塗り替える習慣や、文化大革命時に取り壊されてしまった寺院が多く、昔の古い壁画が見られる所は少なくなっています。そんな私の経験からは、ラダックのナムギャルツェモ、ゴンパのように16世紀後半の画法で描かれた壁画は、とても貴重で新鮮に映りました。

ラダックで有名な僧院の一つにアルチ、ゴンパがあります。この寺院内の壁画は敦煌莫高窟に勝るとも劣らぬ細密さで、壁面360度に渡り緻密な曼荼羅模様や仏陀のストーリーが展されていて圧倒される美しさです。

ナムギャルツェモ、ゴンパでの壁画の修復作業を共にしたのは、ドイツで修復の勉強をしたラダック人の修復技師と二人のアシスタント、それとドイツ人の修復技師および寺院のラマと私の6人です。THFの活動において良い所は何の隔たりも無く地元の方々と一体となって、温かい輪ができていることです。昼食時間には、私達壁画修復チームから職人集、建築士、事業管理者やその家族も集まります。この毎日の一時に、仕事について互いに相談し合ったり、情報交換や町や村の風習、またラマには仏教に関する様々なことを教えて頂きました。毎朝15分かけて崖の上に建つ寺院に赴き、堂内の掃除をし、お経を唱え祭壇の花を入れ替え作業を始める。そんな毎日が今では恋しいです。私の手伝った壁画の修復作業は、10センチほどの厚みのある土

壁の亀裂が入っている所に、土と干草を混ぜ合わせたパテで埋めて塗り固めます。また、フレイキングと呼ばれる破損が激しく彩色層が浮き上がってしまった箇所には、多めの水分で調合した糊で其の表面を柔らかくして時間をかけて元に戻るようにゆっくり押して平にしてゆきます。その他、お香や灯明で煤けてしまった壁画表面のクリーニングを行ってゆくと、見違えるような彩やかな色彩が現われ、

みるみる古い寺院が息を吹き返してゆき、壁画に描かれた様々な神様達も顔を出し、生き生きとしてゆきます。

私はこの仕事がとても好きで、壁画修復の勉強をして、現場で働く人々と知識や経験を共有し合って古き良きものと、地域住民の祈りの場の調和をふまえながら、最良な保存方法を提案できたら本望です。

## JCP事務局通信

今回の震災に際し、文化財救援のために資材提供を呼びかけたところ、下記のような資材をご寄付頂きました。  
この場を借りて厚く御礼申し上げます。

### 寄贈品目録

日 付	寄贈者	寄贈品	個 数
3月31日	(株)フレンドトラベル (賛助会員)	ペットボトル飲料水	2ダース
5月 6日	登録会員	薄葉紙（約110×80cm）	1000枚1メ
5月 6日	登録会員	軍手	2組
		ペーパータオル	1巻
		マスク（レギュラーサイズ）	20枚
		マスク（女性・子ども用）	50枚
		タオル	10枚
		綿棒	1000本
		新鮮保存バッグ	25枚
		ジップロックビニール袋（270mm×280mm）	10枚
		石州紙（中厚170cm）	1枚
		石州紙（薄口200cm）	1枚
		レーヨン紙（12g、450cm）	1枚
		サンモア（225cm）	1枚
5月 9日	特殊紙商事株（登録会員）	タウパーエコソフト（ペーパータオル）	100箱
5月13日	長谷川和紙工房（賛助会員）	美濃和紙（2・3判）2.0匁	80枚
		美濃和紙（2・3判）2.2匁	60枚
		美濃和紙（2・3判）2.3匁	100枚
		美濃和紙（2・3判）2.8匁	82枚
		美濃和紙（2・3判）3.0匁	80枚
5月20日	登録会員	マスク	5箱
		エアキャップ12m	1巻
5月23日	(有)根本（会員）	レーヨン紙（幅100cm×200m）	2巻
		レーヨン紙（パルプ入り）（127cm×200m）	1巻
		ポリエステル紙（幅115cm×200m）	1巻
		楮紙（肌裏用）	約200枚
5月27日	(株)宇佐見修徳堂（賛助会員）	マスク	207枚
5月30日	JCP購入	泥落とし用刷毛（15mm）	20本
		泥落とし用刷毛（22mm）	20本
		泥落とし用刷毛（45mm）	20本
		泥落とし用刷毛（12mm）	20本
		泥落とし用刷毛（20mm）	20本
		エタノール（200ml）	60本
6月23日	JCP購入	ドライウェル（200ml）	10本

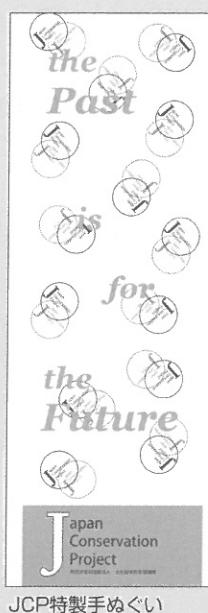
※上記資材について被災文化財救援活動に必要な団体、個人は、お申し出ください。

## 被災文化財救援に募金をお願いします

陸前高田市をはじめとして、今後様々な地域の被災文化財救援活動が本格化していきます。皆様の暖かいご支援をお願い申し上げます。ご寄附いただける方は、下記までご連絡いただければ、振込み用紙（振り込み料無料）をお送りいたします。また、今ご寄附を頂いた方には、JCP特製手拭いを差し上げます。

### 連絡先：

〒110-0008  
台東区池之端4-14-8  
ビューハイツ池之端102号  
TEL：03-3821-3264  
FAX：03-3821-3265



E-Mail : jimukyoku@jcpnpo.org

振込先：

郵便振替 00120-4-10545

NPO JCP

みずほ銀行 根津支店 普通預金口座1091862

特定非営利活動法人 文化財保存支援機構

## 東日本大震災募金支出状況 (2011.08月現在)

[取入]	[支出]	
寄附 2,047,000	資材費、消耗品費 149,396	
	支援物資発送料 35,885	
	支払い手数料 23,742	
	保険料 4,400	
	旅費交通費 276,372	
	専門家謝金 (15000×8日) 120,000	
計 2,047,000	計 609,795	

## 書・籍・紹・介

### 『古典籍 古文書 料紙事典』



編者 宍倉 佐敏  
2011年7月25日 発行  
株式会社 八木書店  
定価 10,000円 + tax  
520ページ  
(内、カラー図版48ページ)  
A5判

本書は、特種製紙株式会社勤務を経て、今まで40年にわたり、国宝・重要文化財の調査に携わった料紙研究の第一人者が、その成果を総合的にまとめたものである。

貴重史料を所蔵する機関での調査・研究成果をふまえ、料紙から読み取ることが具体的に紹介され、史料調査に際し比較し参照できる写真図版が数多く掲載されている。

また、製紙に関する専門用語は詳しく解説され、製作工程等は図解し、調査に役立つ情報（顕微鏡の使い方、購入方法、結果の見分け方等）等が紹介されている。

コラム欄には尊経閣文庫・宮内庁書陵部・金沢文庫・慶應義塾大学斯道文庫・正倉院事務所・五島美術館などに所属する歴史学・国文学・書誌学・保存科学・書道史・仏教史等の専門家19名が寄稿し、より広い知識を補完している。

ページ構成は以下の通りである。

#### □絵力ラー

#### 第1部 料紙の基礎知識

#### 第1章 概説

#### 第2章 製法

#### 第3章 形態と特徴

#### 第4章 装幀と料紙

#### 第5章 原料

#### 第2部 料紙の調査事例

#### 第1章 概古典籍

#### 第2章 古文書

#### 第3章 漢籍・教典

#### 第4章 百万塔陀羅尼

#### 第5章 歴代古紙聚芳

#### 第6章 藩札と私札

#### 第3部 料紙の調査方法

#### 第1章 調査の流れ

#### 第2章 必要な道具とその使い方

#### 第3章 観察と文責方法

#### 第4章 観察と撮影方法

#### 付録

#### 用語辞典

#### 基本的な纖維写真

#### 参考文献

#### 別冊付録

纖維判定用 和紙見本帳 (6種 楮の打紙あり／楮の打紙なし／麻／雁皮／三桠／竹)

竇目測定帳

【編集協力】増田勝彦・吉野敏武・日野楠雄・渡辺滋

現在の日本では、纖維分析などの基礎研究をする人の養成が難しいと編者は嘆く。その中で編者は、分析機器を使った研究者に次々を託すべくその方法を第3部で解説している。本書は研究者のみならず、これから料紙研究を志す人たちへの道標としての役割も持っている。

和紙に興味がある方なら、常に傍らに置き、活用されるべき本である。  
(R. S)

## ご入会ありがとうございました。

(平成23年9月1日現在入会者数)

■理事	8名	■維持会員	7名
■登録会員	163名	■一般会員	99名
■学生会員	55名		
■監事	1名		
■評議員	3名		
■賛助会員	30件		
株式会社	宇佐美松鶴堂		
株式会社	宇佐美修徳堂		
株式会社	岡墨光堂		
株式会社	絵画保存研究所		
株式会社	桂文化財修理工房		
財団法人	元興寺文化財研究所		
京都造形芸術大学	日本庭園・歴史遺産研究センター		
共和コンクリート工業株式会社			
国富株式会社	長崎営業所		
株式会社	芸匠		
株式会社	光影堂		
一般社団法人	国宝修理装こう師連盟		
株式会社	坂田墨珠堂		
株式会社	修美		
株式会社	松鶴堂		
宗教法人	正法院		
中部資材株式会社			
株式会社	東都文化財保存研究所		
日本通運株式会社	美術品事業部		
株式会社	半田九清堂		
長谷川 聰			
百元 節			
株式会社	フレンドトラベル		
株式会社	文化財修復技術研究所		
株式会社	文化財保存		
山領絵画修復工房			
他 個人4名			
(アイウエオ順)			

## NPO JCPの活動に 参加してみませんか？

### ■登録会員：年会費 7,000円

文化財保存に関わる専門的技能を持ち、プロジェクト遂行に協力する個人。

登録会員は文化財の保存事業を行うための専門家で、文化財に直接関わる専門家とは限りません。

### ■一般会員：年会費 5,000円

この法人の目的に賛同し、支援する個人。

### ■賛助会員：年会費 一回50,000円

この法人の目的に賛同し、支援する団体、個人。

### ■学生会員：年会費 3,000円

大学または大学院に相当もしくは準じる教育機関の学籍を持ち、この法人の目的に賛同して入会する個人。

### 会員特典

・季刊情報誌の送付

・講演会/研修会等への優先参加

※入会ご希望の方は、下記のファックス、お電話、メールにて申し込み用紙をご請求下さい。おり返し資料をお送りいたします。また、ホームページからでも入会申し込みができます。

TEL. 03-3821-3264 FAX. 03-3821-3265

E-mail : [jimukyoku@jcpnpo.org](mailto:jimukyoku@jcpnpo.org)

URL : [www.jcpnpo.org](http://www.jcpnpo.org)

※この他にも、隨時寄附を受け付けております。下記の郵便振替、あるいは銀行口座をご利用ください。

・郵便振替 00120-4-10545 NPO JCP

・三菱東京UFJ銀行 四谷三丁目支店

普通預金 3960340

特定非営利活動法人 文化財保存支援機構

理事 三輪嘉六

・みずほ銀行 根津支店

普通預金 1727893

特定非営利活動法人 文化財保存支援機構

### 〈理事〉

三輪 嘉六（理事長）

大林 賢太郎（副理事長） 西浦 忠輝（副理事長）

増澤 文武 沢田 正昭 増田 勝彦

三浦 定俊 山領 まり

### 〈評議員〉

田邊 三郎助 荒木 伸介 伊原 恵司

### 〈本部事務局〉

八木 三香（事務局長） 松本 洋子

### 〈関西支部事務局〉

伊達 仁美（事務局長） 加藤 亜沙子

### 〈編集協力〉

嶋根 隆一（伝世舎）

## NPO JCP NEWS

### 第24号

2011年9月1日発行

特定非営利活動法人 文化財保存支援機構

〒110-0008

台東区池之端4-14-8 ビューハイツ池之端102号

TEL : 03-3821-3264 FAX : 03-3821-3265

E-mail: [jimukyoku@jcpnpo.org](mailto:jimukyoku@jcpnpo.org)

URL: [www.jcpnpo.org](http://www.jcpnpo.org)

関西支部

京都造形芸術大学

日本庭園・歴史遺産研究センター内

TEL : 075-791-8519